

平成30年2月20日

安全の手引き

在チュニジア日本国大使館

● 防犯の手引き

はじめに

チュニジアにおける治安情勢は、2015年には多数の外国人が犠牲となる大規模テロ事件が発生しましたが、同事件以降、当国治安機関が、テロへの強固な対策をとっており、観光施設や大型商業施設、政府関連施設等の警備を強化しているため、概ね落ち着きを見せています。

しかしながら、昨今、世界の様々な地域で、イスラム過激派組織又はこれらの主張に影響を受けていると見られる者によるテロが発生しており、テロ脅威は全世界中で存在するため、チュニジアにおいても同様に警戒を怠らないことが重要です。

一般犯罪についても、チュニジアの治安は日本ほど良いとは言えないため、皆様が犯罪等に巻き込まれないためには、日本国内で生活をしている時とは異なる心構えが必要です。

この手引きは、在留邦人あるいは旅行者や出張者の方々が、チュニジアにおいて、犯罪やテロ等の被害に遭わずに滞在して頂けるようにとの願いを込めて作成したものです。

万一、事件や事故に遭ったときに大使館に連絡して頂くのは勿論ですが、日常生活での心配や不安な点がある時にもお気軽にご相談下さい。

目次

1. 防犯の基本的な心構え
2. チュニジアにおける犯罪の特徴
3. 邦人被害の犯罪事例
4. 防犯対策
5. 交通事故防止対策
 - (1) 車を運転する場合
 - (2) 歩行者の場合
6. テロ対策
 - (1) チュニジアのテロ情勢
 - (2) テロ被害防止対策
7. 緊急連絡先
8. チュニジア国内の主な病院
9. 緊急時の言葉

1. 防犯の基本的心構え

(1) 安全のための三原則の厳守

海外では、「自分と家族の身は自分で守る」という心構えをもって、安全のための三原則、「目立たない」、「行動を察知されない」、「警戒心を怠らない」を念頭において行動することが大切です。

- ・「目立たない」とは、その時々にあわせ華美な服装を避け、携行品や装飾品にも気を付けるなど、周囲にできるだけ溶け込むようにすることです。
- ・「行動を察知されない」とは、出退勤・買い物等の時間や道順の定型的なパターンをできるだけ回避することです。
- ・「警戒心を怠らない」とは、どんな人でも犯罪に巻き込まれる可能性があることを自覚し、周囲の状況に気を配りながら行動することです。

(2) 予防が最良の危機管理

事件・事故に巻き込まれてしまってからでは後の祭です。予防こそが最良な危機管理であることを肝に銘じ、予防のために必要な努力と経費を惜しまないことが重要です。予防するためには、情報収集を怠らず、一歩先の対策を講じることが大切です。

(3) 現地の実態把握

安全のためだけでなく、現地生活を楽しむためにも現地の実態把握は必要です。市内地図等を利用して、自宅周辺や出先の状況を事前に確認して下さい。また、現地の常識（風俗、習慣、宗教、価値観、社会システム）の認識を深めることも必要です。

(4) ネットワーク作りに心掛ける

普段から在留邦人はもとより、隣人、コミュニティー等との付き合い、様々な個人や組織との間でネットワーク作りを心掛けることが重要です。そうすれば、自然と様々な情報が入ってくるとともに、いざというときに隣人の助けも得ることができます。

長期滞在される方は、チュニジア日本人会に加入されることもお勧めします。

(5) 精神衛生と健康管理

生活習慣や慣習の大きく異なる海外での生活は、長時間にわたる緊張を余儀なくされる場合が多く、精神面、肉体面での自己管理が必要です。

(6) 通信手段の確保

万一に備え、滞在中は、可能な限り携帯電話等の通信手段の確保に努めていただくようお願い致します。

2. チュニジアにおける犯罪の特徴

チュニジア人の多くは穏健なイスラム教を信仰しており、一般的に穏やかで暴力を好まない傾向にあります。チュニジアの治安は日本ほど良いとは言えません。

メディアでは、様々な態様の犯罪が報道されていますが、なかには刃物を使用した強盗、殺人事件といった凶悪犯罪も見られ、邦人の方も強盗被害やひったくりの被害に遭っていますので注意が必要です。

3. 犯罪事例及び防犯対策

(1) 住居の防犯

わずか数時間の不在中に玄関ドアが壊され、屋内から現金等が盗まれた計画的犯行と見られる事例や、自宅で就寝中、家に侵入してきた男がナイフを突き付けて家人を脅し、現金などを奪った強盗被害の事例があります。

(対策)

- ・住居の門扉やドアには可能な限り2か所以上に頑丈な錠を取り付ける。
- ・常時鍵を掛け、特に、留守にしたり、就寝する時は確認を怠らない。
- ・窓、ベランダには鉄格子を設置する（特に低層階）。
- ・貴重品は鍵のかかる場所に分散して保管する。
- ・来訪者に対しては、インターホンやドアスコープ等により、相手、用件を良く確認してから扉を開ける。セールスマンや道聞きの振りをして訪ねてくる者もいるので要注意。

(2) 置き被害

空港、ホテル、レストラン等の不特定多数の者が出入りする場所のほか、鉄道で移動中、短時間目を離れた隙に、近くに置いていたバックを盗まれたなどの事例があります。

(対策)

- ・現金、貴重品は可能な限り分散して携行する。
- ・貴重品は肌身離さず携行する。
- ・鉄道では仮眠中の被害に注意する。

(3) 車に関する被害

夜間、自家用車を自宅前路上に停めていたところ、車の部品が盗まれていたり、レストランで食事をするため短時間駐車している際に車内から貴重品が盗まれた事例があります。

(対策)

- ・車両は、できるだけ屋内の車庫に入れ、人目の届かない場所への長時間駐車は避ける。
- ・短時間でも確実にドアロックをする。
- ・車内に貴重品を残さない。やむを得ない場合はトランクに入れて鍵を掛ける。

(4) ひったくり被害

歩行中、後方から近づいてきた二人乗りオートバイの男性に、バックをひたたくられたり、街頭で携帯電話を使用している際に、これを奪われる事例もあります。

(対策)

- ・歩行中は、通りと反対側にバッグを持つ。
- ・特に公道上でスマートフォンの操作は極力控える。
- ・バイクが近づいてきたら、ひったくりを疑い警戒する。

(5) すり被害

電車（メトロ）、バスの他、市街地やメディアナ等の混雑している場所で、財布や携帯電話がすられる事例があります。

(対策)

- ・見知らぬ者が言い寄ってくる際には、所持品に充分注意する。

- ・トートバッグのようなバッグの開き口が大きい形状のものは避ける。
- ・現金、貴重品は可能な限り分散して携行する。

(6) 被害にあった際の対応

路上強盗等の身体犯の場合には、ほとんどの場合が凶器を所持していますので、絶対に犯人には抵抗しないでください。すぐに近くにいる人に助けを求め、警察（197番）に通報するとともに、日本大使館に連絡してください。窃盗被害の場合には、所轄の警察に届け出てください。

(7) 女性が被害となるトラブル

一般的に海外で女性が男性に体を触られるなどの被害に遭う事例がありますが、チュニジアでもそのような被害に遭う可能性が考えられますので、十分注意してください。

(対策)

- ・外出時は、肌を露出する部分の多い刺激的な服装を避ける。
- ・夜間や人通りの少ない場所での一人歩きは避ける。
- ・見知らぬ人の車には絶対に乗らない。

5. 交通事故防止対策

チュニジアに来られた邦人の多くは、交通マナーの悪さに驚かれます。チュニジアの交通事情は日本とは大きく異なっており、2車線道路での4車列走行や、方向指示器を点灯せずに車線を変更したり、走行する車の間を縫って横断する歩行者が多く見られる等、交通法規が徹底されていないため、交通事故の被害者或いは加害者にならぬよう十分な注意が必要です。

そこで、以下の点に注意していただき、「交通事故から自分を守る」という意識で楽しい観光や生活を送っていただければと思います。

(1) 車を運転する場合

- (ア) 走行中は、十分な車間距離、安全な走行速度及び歩行者の飛び出し・横断等に注意するなど、防衛運転に徹すること。(これに尽きます)
- (イ) 免許証、車両カード及び車両保険証を必ず携行すること。
- (ウ) 日頃から車両の整備・点検を励行すること。
- (エ) サッカー開催日の試合会場付近の走行は避けること。
- (オ) 交通事故を起こした場合は、警察への通報と負傷者救護を怠らないこと。

(2) 歩行者の場合

- (ア) 交通ルールを守ること。
- (イ) 交差点を横断するときは、信号が青であっても左右の安全を確認すること。特に、車の通行が日本とは逆になるので、よく確認すること。
- (ウ) 車道と歩道の区別がない道路を通行するときは後方車両にも注意すること。

6. テロ対策

(1) チュニジアのテロ情勢

当地治安当局は、2015年から2016年初頭の一連のテロ事件を受け、政府関

連施設、空港や港、博物館等の文化施設や遺跡等の観光施設等の警備を大幅に強化しました。また、先進主要国などから治安分野で人的・物的支援を受けた結果、治安当局のテロ対処能力が大幅に向上したため、約2年間にわたり大きなテロ事件の発生はなく、治安情勢は概ね落ち着きを見せています。しかしながら、テロの脅威は全世界中で存在するものですので、滞在中は警戒を怠ることなく、各種メディアや大使館からのテロ情報には十分注意してください。

(2) テロ被害防止対策

テロの被害から身を守るために平素から注意して頂きたいことは以下のとおりです。

- (ア) テロの標的となりやすい場所（外国人が集まるレストランや不特定多数の者が集まる場所、政府・軍・警察関係施設等）を訪れる際には、周囲の状況に注意を払い、「おかしいな」と感じたらその場を離れて下さい。
- (イ) 不審物を見つけたときは、近づかず、現場を離れて下さい。
- (ウ) 外務省の発出するテロ情報等最新情報の入手に努めて下さい。
- (エ) 過去に世界で発生した大規模なテロ事件は、ラマダン期間中（特に金曜日）が多いため、ラマダン及びイード期間中やその前後は従来以上に安全に注意して下さい。

7. 緊急連絡先

以下は緊急時に連絡すべき公的機関ですが、日頃から信頼できる隣人・知人を持ち、最寄りの警察署、消防署、病院等を把握しておくことも大切です。

(1) 警察 (Police Secours)

緊急通報番号（日本の110番に相当）：197

(2) 消防 (Protection Civile)

緊急通報番号（日本の119番に相当）：198

(3) 救急車

(ア) 国内全域

公営 (Service d'Aide Médicale Urgente)

電話番号：190

(イ) チュニス市内 (私立)

Allo Ambulance電話番号：71-780-000

(4) 日本国大使館 (Ambassade du Japon en Tunisie)

電話番号：(71) 791-251, 792-363

住所：9, Rue Apollo XI, Cite Mahrajène 1082, TUNIS, TUNISIE

HPアドレス：<http://www.tn.emb-japan.go.jp/jp/index.html>

開館時間：午前8時30分 ～ 午後0時30分

午後1時30分 ～ 午後5時00分

(但し、夏期、ラマダン期は変更となります)

土、日、祝祭日は休館

8. チュニア国内の主な病院

比較的設備等が整った国内の主な病院の一部をお知らせしますので、参考としてください。

- (1) クリニック・エル・マナール ; Les cliniques el Manar
(チュニス : エル・マナール) Tel: 71 875 000
- (2) クリニック・ラ・スークラ ; Clinique de la Soukra
(チュニス : スークラ) Tel: 71 758 888
- (3) クリニック・インターナショナル・ハンニバル ;
Clinique Internationale Hannibale
(チュニス : ラック 2) Tel: 71 137 400
- (4) クリニック・アメン・ラマルサ ; Clinique Amen la Marsa
(チュニス : マルサ) Tel: 71 749 000
- (5) クリニック・レゾリビエール ; Clinique Les Oliviers
(スース) Tel: 73 242 711
- (6) オピタル・サドック・モカデン ; Hopital Regional Sadok Mokaden
(ジェルバ) Tel: 75 650 160

9. 緊急時の言葉

チュニス市を含め地方都市ではフランス語が通じますが、チュニジア南部の観光地に行きますとアラビア語（チュニジア方言）が主流となります。以下に簡単な緊急時の言葉をまとめました。

日本語	アラビア語 (チュニジア方言)	フランス語
「泥棒」	サーラク	ヴォルール
「助けて」	アンナジュダ	オ・スクール
「危ない」	ロッド・ベラック	アタンシヨン
「救急車」	アンビュランス	アンビュランス
「パトカー」	カラハバ・ボリスィーヤ	ヴォアチュール・ドウ・ポリース
「警察を呼んでくれ」	アイイトウリ・シオルタ	アプレ・ラ・ポリース